

小学校との交流

植物観察会



平成13年度から毎年実施している、貯水池予定地に生息する貴重植物を移植・保護する『植物観察会』を、熊田和登先生(岩国山野草を楽しむ会会長)を講師に迎え、錦清流小学校4年生5名といっしょに行いました。

春に「猿飛の石庭」で採集した植物を、秋まで学校で大切に育ててもらい、木谷川沿いの花壇に移植しました。自分たちが住む地域のすばらしい自然と、そこに住む貴重な植物について知ってもらう機会ができました。今後も、貯水池予定地に生息する貴重植物の移植を進めていきます！



地層授業

平成27年度から、理科の授業の一環として地層についての授業を実施しています。今年は錦清流小学校6年生12名に「錦町の地層の説明」や「現場体験学習」を行いました。

最初に錦町の地層の説明をしたのち、実際に現場に行き、自分たちで断層や露出岩盤をハンマーで叩いて硬さを体験したり、色を観察したりし、自分たちの住む地域の地層を実際に肌で感じてもらいました。

地域との交流

7月13日に開催された夜遊びフェスタに平瀬ダム関連業者さんと協力して平瀬ダムブースを出展しました。ブースではカブトムシの無料配布等のほかに平瀬ダムのパネルによる概要説明コーナーを設置しました。



カブトムシ配布状況



現場見学会状況

11月17日に開催された「にしきふるさとまつり」では平瀬ダム現場見学会を開催しダム建設現場でダムの目的や概要を説明等を行いました。当日は約230人という大勢の方に見学会に来ていただき、実際の建設現場でダムの大きさや迫力を体験してもらいました。

小さなお子さんの見学もお手伝い

異文化交流！？

11月5日に錦町に滞在中だったデンマーク王立大学の学生さんが平瀬ダム建設現場の見学にこられました！当日はYD主任の流暢？なデンマーク語や英語により現場を案内しました。

デンマークにはダムがありませんので、ダムの現場を見て大いに感動してもらえたようです。



流暢？な英語で案内する様子



流暢？な英語を褒められました！



最後は皆で記念撮影

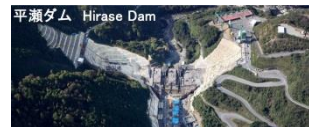
地すべり防止工事に着手！



※令和2年2月末時点状況(A箇所)



※令和2年2月末時点状況(B箇所)



平瀬ダム Hirase Dam

●地すべりとは・・・

山地等の斜面において、粘土等のすべりやすい層を境に、比較的大規模に変動する現象です。
ダム貯水池においては、湛水により、斜面に浮力が働くこと等から、地すべりが発生しやすくなります。



■平瀬ダムの貯水池周辺において、湛水に伴う地すべりが発生した場合



- ・貯水池内に大量の土砂が流出し、ダムの治水・利水機能が大きく損なわれるおそれ・・・
- ・地すべり周辺の道路が崩壊するかも・・・

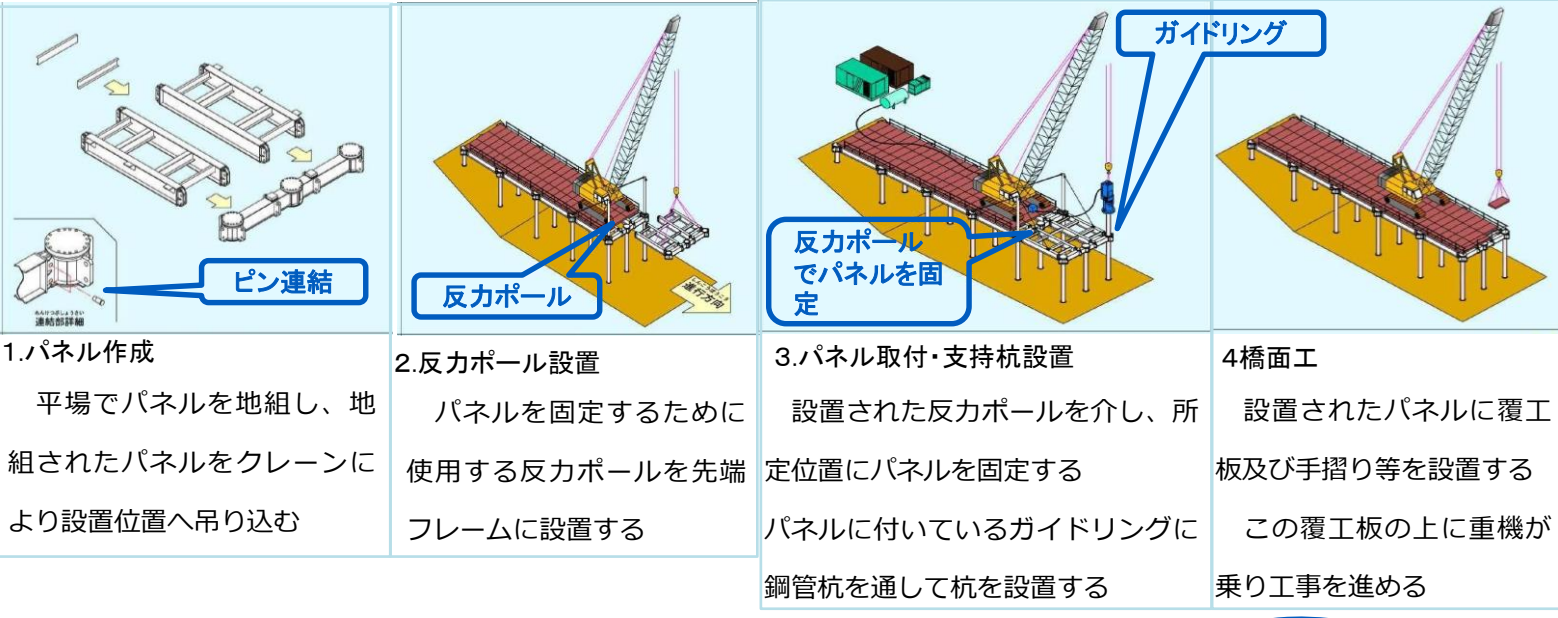
だから・・・

地すべり防止工事を実施して安心・安全を確保する！

pickup ～工夫された仮設構台～

平瀬ダムの地すべり防止工事では仮設構台（仮設の施工用スペース）の施工を従来工法と比べより安全でよりスピーディーな工法で施工しています。ここではその工法について紹介します。（紹介スペースの関係で1工法のみを紹介としますが、別工法での施工も同時に実施します。）

採用工法作業手順



注目POINT

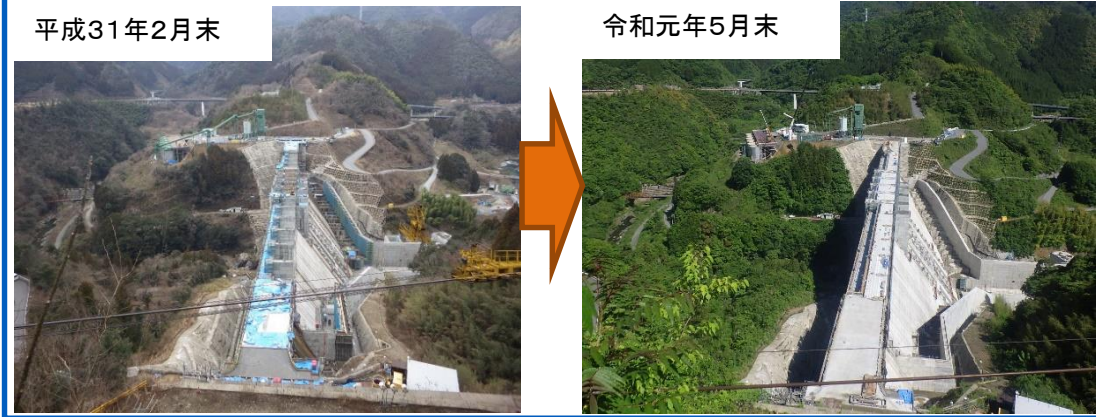
従来工法との比較

	従来工法	採用工法
上部工施工性	下部工完了（杭橋脚・補強材設置・足場構築）までの施工が困難。	杭橋脚打設と次のスパンの平場組立の並行作業が可能で施工性に優れる（その他次打設鋼管の溶接作業等の同時作業が可能であり、各工程間の相互拘束が少ない）
人力組立作業	・地面から上に向けての足場構築作業が不可欠であり、足場上の高所（架設）作業が発生し、作業効率が低く危険がある。	パネル上での作業となり、安定した足場での作業が可能のため、作業効率がよく、安全である。
下部工施工性	地面からの施工が不可欠であり、多量のブレース材設置が必要。また、下部工完了まで上部作業が出来ない。	少量のブレース材設置で済み、専用足場の使用により地面から施工しなくてすむ。また上部作業も並行して施工可能。
杭橋脚打設	杭橋脚を先に施工するため、上部工がずれないように詳細な位置出しが必要	上部工（パネル）を先行施工可能であり、パネルには施工用の穴が開いており、その穴に杭を通して施工すれば良いので詳細な位置出しが不要
基面整形	杭芯周辺及び足場材の基礎部となる桁全体に実施	杭芯周辺に限定実施でよい

錦川だより第34号で平成31年2月に本体コンクリートの打設完了をお知らせしましたが、実はダム本体の工事はまだ終わっていません！
ここでは現在ダム本体でどのような工事を実施しているかをご紹介します。

ダム天端橋梁

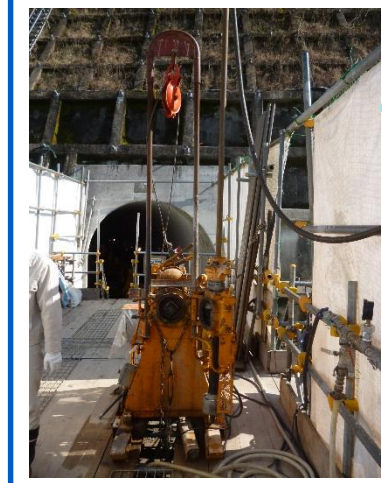
ダムの頂上(天端)には、ダムを管理するための道路が必要となります。そのためダム天端に橋を架ける工事を実施し、令和元年5月に橋を架け終わりました。今後転落防止用の防護柵や舗装を施工し、ダム完成後は市道としても供用される予定です。



左の写真は進捗状況の写真です。よく見ると2月には天端に何もありませんが、5月の写真には橋が架かっているのが見えます。
この橋をダム完成後には車や歩いて渡れるようになります。

グラウト注入工事

ダムができている箇所の地盤は固い岩盤でできていますが、1枚の岩盤だけではなく、実は小さいひび等があります。その隙間からダムに溜まった水が抜けないようにグラウト材を注入する工事を現在実施中です。



この機械で地面に穴をあけてそこからグラウトを岩盤の割れ目に注入していきます。

左の写真の機械が沢山ならんでいます。広範囲にカーテンのようにグラウトを注入して、ダムに水が溜まっても水が漏れないようにしています。



ゲート操作室建築

平瀬ダムにはゲートが設置されていますが、そのゲート进行操作する機械や、動かすための巻き上げ機等を設置するための建物を現在工事中です。



平瀬ダムでは注入するグラウト材にセメントミルクを使用しています。セメントミルクとはセメントと水を混ぜたものです。平瀬ダムでは左の白い建物の中にセメントが保管されており、右の機械で水と混ぜてセメントミルクを現地で製作し使用しています。

